

令和6年度“「長久手市役所の仕事」通知表”の作成（外部評価）③

令和6年8月23日 開催概要

開催概要	
開催日時	令和6年8月23日（金） 午後2時5分から午後2時55分まで
開催場所	市役所西庁舎3階 学習室1・2
出席者氏名 （敬称略）	＜外部評価実施者（行政改革推進委員）＞ 石橋健一、服部亜由未、室 淳子、細萱健一、 青山正秋 ＜担当課＞ くらし文化部長 門前 健 安心安全課長 久保田直也 係長 栗山徳明 ＜事務局＞ 総務部次長 福岡隆也 行政課長 山田美代子、 課長補佐 水草 純、庶務係長 佐藤雄亮
傍聴者人数	2人
問合せ先	長久手市総務部行政課 0561-56-0605
備 考	

＜外部評価実施者の質疑、意見等＞

委員

アプローチは誰にどの頻度でどのように依頼しているか。

担当課

毎年4月、新しい自治会長が集まる機会に自主防災活動に関するしおりを配付している。

また、自治会連合会、まちづくり協議会及び区会では、月1回の会議で防災に関する取組として、自治会に対しアナウンスしていると認識している。

委員

活動実態が少ないと感じるが、どう考えているか。自主防災の活動をしていない自治会等に対しどうしているか。

担当課

長久手市は被災実績がなく、まだ他人事だと思っている市民が多いので、機会をとらえて周知し、自分事として思ってもらえるように働きかけることが必要と思っている。役員が変わり、意欲のある人がいなくなると、活動が途切れてしまうことがある。

委員

自治会役員は毎年変わるので大変だが、自主防災意識をもってもらうため、活動報告のないところへの声かけ等の努力が必要と考える。

委員

自治会加入者が減り、音頭を取る人が減る中、どうやって推進していくかが大事である。

どのように成果指標を達成していくのか。

委員

自主防災倉庫の設置数を活動指標にするのはピンと来ない。

担当課

活動指標については適切な指標を検討していきたい。

委員

地域の自主防災組織と、積極的な自主防災組織を分けて考える必要がある。積極的な自主防災組織の活動や成果を測るため、例えば活動指標は担当課による講習会の回数、成果指標は資機材の貸与とすると、測りやすくなるのでは。

資機材を借りるだけで活動をしないう組織もあるとのことなので、講習会を行う際に消耗品を配ったりすると、より活動しやすくなるのかなと思った。

毎年自主防災組織を1%ずつ増やす目標を立てているなら、予算を継続的に組む必要があるのではないか。

担当課

指標はいただいた意見をもとに、分かりやすく事務を評価できるよう見直しを検討する。

自主防災倉庫設置に関する予算は、原則、申請があり次第、次年度予算で確保していく予定である。

委員

自主防災組織に貸与する備品や消耗品の数量は、どのような目算の上で決められているのか。発災時に役立つかどうか検討されているのか。

担当課

消耗品は、数日分しか貸与しない。地域にもそのように説明しており、地域が必要に応じ補充している。金額がかさむものは市が補充している。

委員

自主防災に関する他の事業はどのようなものがあるか。

担当課

地域での活動を促すような事業は、この事業だけである。防災に関する事業としては、防災訓練事業、防災士育成事業や、避難所環境を整備するための事業がある。

委員

最終成果に、「自主防災活動が進められるようになる」、とあるが、「災害応急対策活動が進められるようになる」ではないか。

中間成果は、貸与された資機材で訓練活動が行われているかを測れるものであるべき。問題は、自治会の役員が変わったことによって温度差が起きることである。ターゲットをしぼり、自治会役員の意識を醸成し、少ない予算で最大の効果を出すために、他の事業と連携する等し、どうするのかを検討すると良い。自主防災活動は、楽しくないと参加してもらえない。

講評

- ・指標が曖昧なので事業のターゲットを具体的に示して検討すること。
- ・年ごとに出る自治会役員の温度差を無くすにはどうすればいいのかを検討し、活動のレベルを一定に保つ工夫をすること。
- ・予算が限られるので、他の事業との関連性をもって進めてほしい。